

学校 東雲 (しのめ)

だより



TEL 31-3170・31-3180 FAX 32-1130 http://www.hachinohe.ed.jp/higasi_j/

※東中学校の情報は、ホームページやブログでも公開しております。是非ご覧ください。

学習意識の向上と主体的生活習慣の定着が課題！

教頭 工藤 聡

学校だよりでは、2回にわたって「東中の教育活動」に対する保護者アンケートの結果と、保護者の皆様の自由意見に対する学校の見解を掲載してきました。保護者アンケートと同じ時期に、生徒にもアンケートを実施しておりますので、今回はその結果についてお知らせいたします。

五つの生活実践 (数字は「できている」生徒の割合)

	(24年度)	(23年度)	(22年度)
1 朝、自分の力で起きている。	84%	81%	83%
2 あいさつと返事をしっかりしている。	93%	93%	88%
3 履き物をそろえておき、大事にしている。	95%	94%	93%
4 継続して、人のために何か尽くしている。	88%	78%	73%
5 歩いて登校・下校している。	96%	94%	91%

学校では、中学校3年間の勉強や部活動はもちろん、行事等のいろいろな体験を通して、『一人一人が子どもとしての幼さから脱却』して、『自ら考え判断・行動することで、自らの責任を積極的に果たす大人へ成長する』ことが、何よりも大切なことだと考えています。ですから、上記の「五つの生活実践」を教育活動の根底に据え、それを生徒にも意識させながら指導しているわけです。その点で、すべての項目で学校が達成の目安としている80%に達したことはうれしい限りです。特に、昨年度まで70%代だった「継続して、人のために何か尽くしている」が、10ポイントも伸びました。3年生が八戸市教育委員会のボランティアに大勢登録したりしたことなどが遠因と考えられますが、何と云っても、それぞれの生徒の意識が高まったことが大きいのだと思います。しかしながら、日常の学校生活に関わる以下の結果を見ると、手放して喜べないことがわかります。

生徒アンケート結果

No.	質 問 項 目	24年度	23年度	22年度
1	遅刻せずに登校している	95	97	95
2	勉強道具を前の晩のうちにそろえている	83	86	83
3	夜ふかしせずに寝ている	69	72	65
4	親とはよく話をする	88	84	82
5	退下後は、買い食いや寄り道をせず帰っている	98	97	96
6	元気なあいさつをしている	90	91	82
7	目上の人に丁寧な言葉遣いができる	95	95	90
8	朝自習に真剣に取り組んでいる	92	94	90

9	授業内容はわかりやすい	79	82	73
10	授業では、積極的に発表している	64	63	55
11	授業中、教え合ったり学び合ったりしている	86	84	73
12	家庭学習に毎日取り組んでいる	88	89	86
13	理解の不足している教科がある	90	80	87
14	基礎と応用に分けたらいいと思う教科がある	75	64	67
15	テスト期間中は計画どおりに勉強している	73	74	69
16	読書に親しんでいる	80	88	80
17	服装をしっかりと整えている	95	96	93
18	部活動に積極的に取り組んでいる	93	95	88
19	係活動は一生懸命行っている	95	95	92
20	学校行事に積極的に参加している	92	96	90
21	清掃の前後の黙想をきちんとしている	92	95	85
22	中学校生活に満足している	86	83	73
23	友達や級友の気持ちを理解し、仲良く過ごしている	93	92	92

全般的に数値は下がっていますが、さらに「4（あてはまる）」と「3（だいたいあてはまる）」を合計した数字を見ると昨年度と大きな差は見られませんが、「4」だけを比較すると、低下が見られる項目がいくつかあります。

○宿題や自主学習に真剣に取り組んでいる。→46.3%（昨年度60.6%）

○周囲に流されず、正しい判断で行動できる。→20.8%（32.8%）

○清掃に進んで取り組んでいる。→46.2%（62.0%）

○目上の人に丁寧な言葉遣いができる。→51.9%（61.1%）

○朝自習に真剣に取り組んでいる。→52.4%（62.1%）

また、昨年度に比較して、気になる部分で数字が動いている項目は次の2つです。

○理解の不足している教科がある。→89.8%（80.3%）

○基礎・応用クラスに分けて授業をしたらいいと思う教科がある。→75.4%（64.0%）

理解の不足している教科については、「4（あてはまる）」「3（だいたいあてはまる）」の両方とも増加しています。それが、基礎・応用に分けて授業…という項目の増加にもつながっていると考えられます。しかしながら、分ければいいと思う教科については、昨年度とほとんど増減が見られません。どの教科において、何がわからないのかを自分でわかっていないと思われるのです。また、「授業内容がよくわかるために、授業でどの点に力を入るとよいですか」という問いには、「宿題・復習」という、ある程度生徒自身が努力しなければならない項目より、「わかりやすい説明・練習や活動場面の設定・理解しているかどうかのチェック」という、どちらかといえば、教師の授業改善に期待するという受け身的な考え方の傾向が強いことがわかります。

○中学校生活に満足している。→86.1%（82.6%）

様々な点で課題が見られるわりには、満足している生徒の割合が増えていることが驚きです。「この程度でいい」という形で妥協してしまっていて、向上心が薄れてきているということも考えられるのではないのでしょうか。

以上のことから次の2点が考えられると思います。

一つは、学習に対する意識が低くなっていることです。なんとかしたいと思っても、自分自身で努力したり、意欲的に学習することに対しては、きわめて消極的です。

もう一つは、規範意識の低下です。それが、普段の様々な活動を促していくことにつながらず、学校生活におけるいろいろな活動の停滞を招き、それが問題行動に直結しているばかりでなく、学習意欲にも悪影響を及ぼしていると考えます。

いい形で伸びてきている「五つの生活実践」が、厳しい見方をすれば表面的なことで留まってしまい、日常の学校生活に生かされていないのです。まずは、「五つの生活実践」を土台に、学習に対する意識の向上と主体的生活習慣を定着させることを今後の課題として、今後も真摯に、そして全力で指導にあたっていきたいと思えます。